

第19次派遣(新千厩) 9月11日(日)~9月17日(土)

友野 卓磨さん (長野)

中西 愛さん (静岡)

班長：兼田 典生さん (北陸)

《全労金第19次派遣の3名が出発しました！》 9月11日

第18次派遣の杉本青年代表幹事、福井青年委員、大変お疲れさまでした。

そして、本日より第19次派遣として、北陸労組 兼田 典生執行委員、長野労組 友野 卓磨青年部書記長、静岡労組 中西 愛青年委員が現地へ向けて出発しました。

出発前に、3名よりこれからのボランティア活動への決意をいただきましたのでご紹介します。

《北陸労組 兼田執行委員》

全労金第19次派遣の班長という大役を担い、不安もありますが、18次まで続けてきたこの活動をしっかりと引き継ぎ、次の第20次メンバーに繋げられるよう一生懸命頑張ります！

《長野労組 友野青年部書記長》

具体的な活動は、現地に行ってみないと分かりませんが、与えられたことを精一杯やって、現地を見たこと、感じたことなどを地元の皆さんに伝え、この活動をしっかりと繋げていきたいです。

《静岡労組 中西青年委員》

今日で震災からちょうど半年が経ちました。復興にはまだまだ時間がかかるかもしれませんが、少しでも力になれるよう頑張りたいです。

今回、全労金からは3名の派遣で、千厩チームは21名となります。全員で力を合わせて頑張ってください。

全国の組合員のみなさん、3名の方へ熱いエールをお願いします！



《左から、静岡労組 中西さん、北陸労組 兼田さん、長野労組 友野さん》

《新千厩BCに到着しました》 9月11日

北陸労組の兼田です。無事に新千厩BCに到着し、食事もし終わりました。今日の連合本部での出発式には連合第23次のメンバーが約100名ほど集結しました。改めて、連合の組織力・連帯力に驚かされましたし、その中の一員として参加できることを誇りに思いました。私たちのバスは2号車だったのですが、新千厩BC経由で大東BCに向かうもので満席でした。ちなみに、1号車は仙台BC経由の美里BC行きです。今回は4つのBCにいっせいに100名を超えるボランティアを派遣することになります。出発直前に全労金の新谷書記次長に撮っていただいた写真を見てわかるように、私は白くて華奢に見えますが、見た目通りです。気持ちが高ぶって、自分の力以上の作業をしてしまいそうですが、無理をして、逆に迷惑をかけないように気をつけたいと思います。長野労組の友野さんと静岡労組の中西さんと力を合わせて、精一杯、明日からの活動を頑張ります。

今日は初日ということで、友野さんと中西さんにも一言お願いしました。

長野労組の友野です。今回参加させていただいたことに労組のみなさん・職場のみなさんに大変感謝しています。ありがとうございます。自分に何ができるか、どこまでできるかはわかりませんが、ボランティアの要請をいただいた方の『思い』をしっかりと考え、自分たちのできることを精一杯やってきたいと思います。熱く！熱く！！…でも熱くなりすぎて倒れない程度に頑張ります！！

静岡労組の中西です。まずは、今回送り出してくださった職場の皆様、労組の皆様に深く感謝を申し上げます。先程無事に千厩BCに着き、食事、入浴を終え、また明日の準備を整えました。明日から作業開始となりますが、依然、日中の気温は30℃を越えると聞いています。体調管理には気を付けつつも、兼田さん・友野さんや、ともに作業を行う連合の方々と共に協力しながら、現地の方々に寄り添った、あたたかい作業をしていきたいと思ひます。



《今日の夜ご飯、差し入れのおつけもの、明日の準備をしている若者二人》

《活動1日目のお昼》 9月12日



《作業前》



《現在》

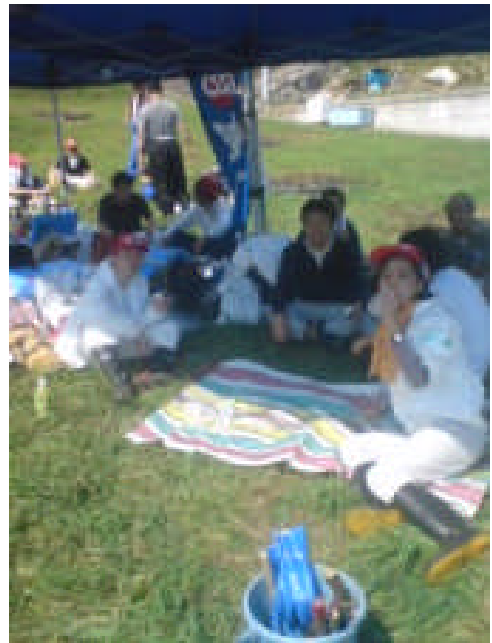
こんにちは。私たちは現在、活動初日のお昼を過ごしています。

本日の全労金メンバーの作業は、陸前高田市の個人宅にて畑の草刈りです。

まだ午前中の数時間の作業ですが、鎌やノコギリ、草刈機を使って生い茂っていた雑草は大分切り落とすことができました。あと半日、更にきれいになるよう、皆で協力して午後の作業も乗り切っていきたいと思います。

本日の陸前高田市は晴天で、強い日差しを浴びながら作業を行っています。

午後も体調に気を付けながら、また、(所々ガラスの欠片が落ちているので)足元に気を付けながら、丁寧な作業を心がけます。(静岡労組 中西)



《昼食休憩の様子》

《活動1日目の夜》 9月12日

お疲れさまです。私たちメンバーは、本日の作業を怪我なく無事に終えることができましたことを、まずはご報告させていただきます。そして、皆様からいただいているコメントへの書き込み、ありがとうございます。とても勇気づけられています。

さて、本で行った作業の草刈りですが、活動時間内に終えることができました。草と言っても、雑草はもちろん、私たちの背丈以上に生えきった植物や、茎の太さが直径2センチ以上と、鎌で切り落とすのに力が必要な植物など、様々であり、地味ではありますが、握力のいる作業でした。

それでも、私たちは依頼者の方々に少しでも喜んでいただければ、少しでも元気になっていただければ…そんな想いをもちながら、作業にあたり、結果として完了することができました。

明日どんな作業になるのか、明日でないとわかりませんが、どんな作業になっても万全の体調を整えていきたいです。

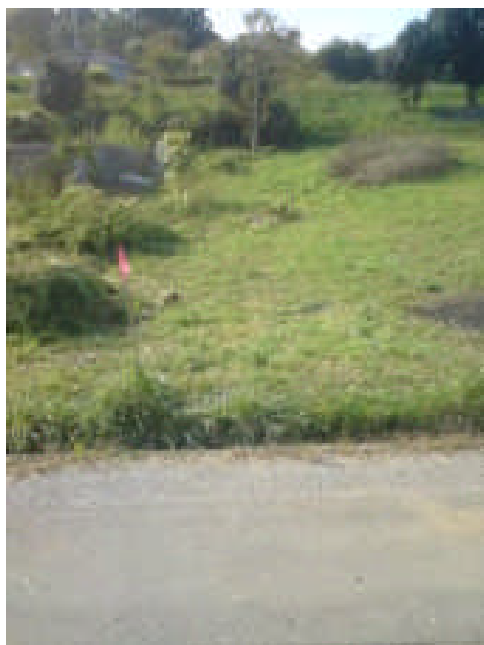
作業終了後は、新千厩BCに帰る前に気仙沼市に立ち寄っていただきました。

今日見た陸前高田市も気仙沼市も、特に沿岸部の被害の爪痕はまだ残ったままであり、廃車になる車、大量の瓦礫など、依然として積み上げられたままです。また、ホテルや病院、商業施設のような3階以上の建物でさえも、津波の被害を直に受けているのを自分の目で見て、改めて自然災害の恐ろしさを感じました。

東日本大震災から昨日で半年がたちました。半年たったとはいえ、まだまだボランティアを必要としている地域、復興まで時間を要する地域が多くある、そう現地に足を踏み入れて強く感じました。

私たちの活動は、復興支援のためのほんの一部でしかありません。しかしながら、少しでも現地の方々に寄り添った作業を行いたい、そんな想いをもちながら、明日も作業に取り組んでいきます。

引き続きよろしくお願ひ致します。(静岡労組 中西)



《作業終了後の風景》



《陸前高田市の風景（地震以降、海岸線が200mくらい上がってしまったそうです）》

《活動2日目のお昼》 9月13日



《作業中の北陸労組：兼田さんと静岡労組：中西さん》



《沿岸沿いの堤防》

こんにちは。2日目の活動をスタートして数時間、現在は昼食休憩中です。

本日の作業は、きのうとほぼ同じ場所で、畑の草刈りや側溝の泥だし、瓦礫の撤去をおこなっています。

きのうの作業と重複するところもあり、範囲は広いですが、段取りよく進めることができていると思います。

一帯は家が建っていたり、小さな工場が並んでいたそうですが、全て流されてしまったとのことでした。

堤防は、今見ると決して低いものではないのですが、これを軽々と超えていったと聞いて、改めて津波の恐怖を感じました。

今日は曇り空となっておりますが、それでも作業着を着ての作業はやはり汗だくです…。午後も元気をだして作業にあたります。(長野労組 友野)

《活動2日目の夜》 9月13日

お疲れさまです。

私たちメンバーは、2日目の作業も怪我なく無事に終わることができました。

今日は作業依頼場所が非常に広範囲で、全てを終了させることはできませんでした。

明日も同じ場所で作業ができるか、別の場所になるかは、参加人数等を加味して、ボランティアセンターが決定するため、明日、ボランティアセンターに行ってみないとわかりません。

ですが、明日も与えられた作業場所の依頼主の方の「思い」に近づけるよう、『(暗くやっても効率があがらなかったりするので…)常に前向きに』『チャレンジ&継続』の気持ちをもって作業にあたりたいと思います。(職場の同期の言葉を使わせていただきました！)

また、夕食後に連合岩手の小野事務局長と連合岩手気仙地区協議会の吉野事務局長にお越しいたいただき、それぞれお話を伺いました。

小野事務局長からは、「ボランティアのみなさんの活動する姿を見て、被災者の方達は元気をもらえているという面も多分にある」という激励のお言葉をいただきました。

吉野気仙地区協議会事務局長からは、大地震・大津波を実際に経験し、目の当たりにしたからこそのお話をたくさん聞かせていただきました。

先週参加されたお二人のブログでも紹介されていきましたので、内容については省略しますが、包み隠さず、お話いただいたものの中には、顔をしかめてしまうような内容もありました。それが現実だったのだと思います…。

話を聞いた私たちがどう感じ、明日からの活動にどう活かすか、地元に戻ってどう伝えていくかが大事だと思いました。(長野労組 友野)



《左から兼田さん・吉野事務局長・友野さん・中西さん・お世話してくれている連合高知の高橋さん》

《新千厩BCについて》 9月14日

おはようございます。北陸労組の兼田です。

連日の皆さんからの温かいコメント、本当にありがとうございます。温かいコメントの数々に心が癒やされますし、私たちにはたくさんの仲間がいて、励まされ、応援されているんだと勇気づけられます。ただ、残念なことに、BCの皆さんに失笑を受けながらも昨日の作業から日焼け止めを使用することにしたので、やっぱり色白のままボランティアを終えることになりそうです。

今日は活動報告とは別に、気になる新千厩BCの様子などをお伝えします。

今回、第19次メンバーの友野くんと中西さんは本当に明るくて、元気がよくて、しかもしっかりしています。食事の時やボランティアの休憩の時には、その場を和ませてくれるムードメーカーです。他の単組の方からは、「ろうきんさんは仲いいね」と初日から言われるくらい、連携もバッチリです。もちろん、作業も何でもこなしてくれます。また、一緒に1週間を過ごす他の単組の皆さんも明るくて、共同生活も楽しいですし、作業中の連携もこれまたバッチリです。毎日、いろいろな差し入れもいただいて、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。このブログのこともBCの皆さんに興味を持っていただいています。

今回の新千厩BCには中西さんの他に、お二人、女性の方がいらっしゃいます。なので、中西さんも心強いのではないかと思います。もちろん、女性3名の部屋には鍵がついてますので、心配されている方もいらっしゃったかとは思いますが、ご安心ください。

作業は暑くて辛いこともありますが、このメンバーで活動できて本当に良かったと思います。

残り3日、新千厩BC一体となって作業に取り組みたいと思います。

長くなって申し訳ないですが、昨日、貴重なお話をしていただいた気仙地区協議会の吉野事務局長のお話を聞いての感想を書かせていただきたいと思います。昨日のブログで友野くんがコメントしていたように、内容については記載できませんが、お話を聞いて「事実の一部分だけみて全体をわかったような気になってはいけない」とつくづく思いました。私自身、今回の震災に関して誤ったとらえ方をしていたところがたくさんありました。被災地域の風景については、私たち3人もある程度、お伝えすることはできると思います。けれど、被災された方々のお話は単純にお伝えすることはできません。被災された方それぞれに、今回の震災に関する思いがあり、その思いを正確に伝えられるのはその方だけからです。それでも、この震災を風化させない・被災地のことを忘れないためにも、ボランティアに参加する機会を与えていただいた私たちが、その状況を伝えていかななくてはなりません。とこまで出来るか分かりませんが、ボランティア終了後も「伝える」という取り組みを継続していきたいという気持ちになりました。

《活動3日目》 9月14日

こんばんは、北陸労組の兼田です。

朝に長いコメントをしてしまったので、お昼の報告は省略させていただきました。すみません。にも関わらず、たくさんのコメントをいただいて本当にうれしいです。ありがとうございます。

今日も引き続き、同じエリアでの草刈り・瓦礫の撤去等がんばりました。

最高気温も24℃と比較的涼しく、しかも曇り空だったので、休憩時には、作業中の汗が冷えて少し肌寒いくらいでした。私だけかもしれませんが…広範囲の作業領域でしたがBCのみんなで協力し合って、無事に依頼主の方にオッケーをもらいました。3日目ともなると、自然と役割分担が出来てきて効率もよくなってきている気がします。この3日間、瓦礫撤去も行いましたが、携帯電話が出てきたり、コップやお茶碗が出てきたり、CDやビデオテープなどを見つけたりすると、勝手にその持ち主の生活を思い浮かべてしまって、「津波がなかったら今もそれらの品々は大切に使われていたんだろうな」と目頭が熱くなり、瓦礫として処分することを躊躇してしまいます。顔写真付きのものや現金・通帳など、ボランティアセンターに持ち込めるものは限られているため、やるせない気分になります。

明日もいろいろなことを考えながら、ボランティアを頑張りたいと思いますので応援よろしくをお願いします。

添付の写真は、作業前、作業後、海鳥に囲まれながらの作業風景です。海鳥たちは、掘り起こした土から出てくる虫を狙ってるみたいです。人を怖がらない上に、私たちが現場に着くと「早く草刈りしてよ」って感じで並んで待ってます。



《作業4日目のお昼》 9月15日



《作業場所の風景（作業前）》



《中西応援メッセージTシャツ（似顔絵入り・本店営業部のみんなが書いてくれました☆）》

こんにちは。

私たち全労金メンバーは、女性一名が腰痛であることを除けば、いたって元気です。

さて、本日の作業場所は海岸近くにあった公民館跡地です。地震による津波で、公民館ごと流されてしまったとのことであり、今日はこの場所で瓦礫の撤去や木片、金属、衣類、紙などを拾っています。

ただ、思いの外作業に難航しています。

たとえばビニール1枚拾っても、ビニール内にガラスやビン、瀬戸物の欠片が入っていたり、大きな石の下に紙が埋まっていたりと、危険と隣り合わせの作業だと、半日終えて感じました。

また、丁寧に拾っていると、被災者の方の思い出の品が多く見つかります。

子供用の靴、冬用の手袋、女子高生のものと思われる学校の制服、教科書や雑誌、眼鏡、ぬいぐるみ、お守り…

私たちの作業をしている場所で、10月中旬に子供たちを集めてお祭りが催されるとのことです。

お祭り開催まであと1ヶ月弱、開催が予定通りできるよう、また、被災者の方の思い出の品が見つけられるよう、午後も精一杯取り組んでいきます。

それでは行ってきます。（静岡労組 中西）

《活動4日目の夜》 9月15日



《陸前高田ボランティアセンターの看板》



《ボランティアセンターで働くみなさん
(このようなみなさんの笑顔を見たり、
ありがとうの言葉を聞くことで、毎日の
活動を頑張れます！)》

お疲れさまです。

今日はよく晴れ、また、高温であり、9月中旬とは思えないくらい汗をかきながらの作業でしたが、私たち全労金メンバーは怪我なく、体調不良になることなく、明日の最終日を迎えられるそうです。

ちなみに私も相変わらずの(持病の)腰痛をかかえながらの作業でしたが、インドメタシンと兼田さん・友野さんの優しさによって、痛みも和らいできています。ご心配お掛け致しました…。

さて、お昼にもお伝えしました本日の活動(瓦礫や木片、金属等々の撤去)ですが、作業完了までには至れず、任務を終えられない悔しさを持ちながら、今日の作業場所をあとにしました。

明日の作業場所ですが、(明日の朝、ボランティアセンターに行ったらはじめて明日の作業を知ることができるので)今日の続きの作業が行えるのか、全然違う場所での作業になるのかわかりませんが、どんな仕事になっても力を尽くして作業に取り組みたいと思います。

この活動期間中、直接津波で流された地域を目の当たりにしたり、被災者と直接お話をしたり、連合岩手事務局長の小野さんや連合岩手気仙地区協議会事務局長の吉野さんのお話を聞いたり…また、私自身については、先月長崎平和行動に参加させていただいたのですが、そのときに開催された『東日本大震災からの復興・再生に向けた全体集会』での内容を思い出したり…

そういったことを作業をしながら頭のなかで考えていくうち、恐怖心ゆえに、ときには足がガクガクすることもありました。

ただ、被災者の方は前を向いて復興に向けて尽力されています。今回この場所へ来て、そういった被災者の姿に何度も接しました。いろんな方と接するうちに、私にできることはそう多くはないけれど、復興実現まで自分にできることをし続けよう、絶えず行おう、そういう強い気持ちをもつようになりました。

そのためにも、私はこのボランティアを終えたら、まずは現地に行くことのできない方

の分まで、家族、友人、職場の先輩や後輩、労組の方々へ…私が直接聞いたこと、感じたことをきちんと伝えていきたいと思います。

被災者の方の心の苦しみに、私はもっと寄り添いたいと思うし、もっといえば、皆がこの被災者の苦しみに真摯に向き合わなくてはいけないと私自身、思います。

私たちの現地での活動は明日で終了となります。けれども、復興まで道半ばです。復興実現させるにあたり、政治的な問題はどうしても引っ掛かってきますし、避けては通れません。しかし、私たちの復興させようという気持ちがあれば、もしかしたら政治的な問題を打破する力は生まてくるかもしれないし、皆が同じ方向にむかって突き進めば、きっと明るい灯火は見えてくるはず、そう私は信じています。

私たちが明日無事に活動を終え、第20次メンバーに襷を繋げられるよう、明日、力を振り絞って活動に向かいます。

引き続きご支援のほど、宜しくお願いします。(静岡労組 中西)

《活動最終日》 9月16日

いよいよ最終日。とにかく暑かったです…。まさに炎天下。。

ただ、怪我なく無事に作業を終えることができましたことを報告させていただきます。

今日はきのうと同じ場所で瓦礫撤去等を行いました。

きのう作業を完了できなかったこともあり、できれば今日も同じ場所で作業をしたいと思っていたので、ありがたい気持ちで、作業にあたりました。

ガラスや木片などの瓦礫を拾い上げるとき、毎朝バス乗り場まで歩いていく道中ですれ違う小学生たちのことを思い浮かべてました。

「おはようございまーす！」・・・元気いっぱい子どもたちは挨拶してくれて、その姿は私達に「今日も頑張るぞ」と思わせてくれます。

作業をしている場所で明日イベントを行う際、その子どもたちがブルーシートを敷いて座ることを想像したとき、あの子たちを座らせることができるか？

・・・そんなことを考えると、ほんの小さな瓦礫も見逃してはいけないと思い、丁寧な作業を心がけました。

それでは、これからバスで被災地を視察して回り、千厩BCまで戻ります。(長野労組 友野)



《作業奮闘中の兼田さんと中西さん》

《活動最終日の夜》 9月16日

みなさんこんばんは。

たった今、千厩BCを出発しました！

朝6時を目処に東京駅に到着予定となっています。

最後ですので、3人から思いの丈を述べさせていただきます。



《作業終了後の千厩BCメンバー》

《長野労組 友野》

今回のボランティアは、わかっていなかった現実を知るまたとない機会となりました。いろいろなものを見て・聞いて…それによって様々な感情が押し寄せてきました。ただ、その感情は悲しいものだけではありません。それが私にとって『救い』だったし、『喜び』だったし、被災地の皆さんも、ツライ毎日の中で『喜び』を感じることで、前を向くことができているのだと思いました。感じたこと・経験したことを、これから多くの人に伝えていきます。また、千厩BCと一緒に活動した他労組の皆さんにはスゴく可愛がっていただき、良くしていただきました。そして、全労金メンバー。兼田さんは、班長として率先していろいろと行動していただき、スゴく頼もしく、そのおかげで仕事がしやすかったです。中西さんは、常にムードメーカーとして盛り上げてくれて、みんながホントに疲弊しているときにも元気を与えてくれました。このメンバーと共に行動した日々は決して忘れません。そして・・・応援してくれたみなさん、本当にありがとうございました。

《静岡労組 中西》

このボランティアに参加させていただき、職場の皆様、静岡労金労組の皆様をはじめ、家族や友人、このブログを読んでいただいているすべての方、そして今回共に活動を行ったメンバーなど、本当に多くの方に支えていただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。女性の参加者ということで、活動内容、共同生活について等、皆様には非常にご心配をお掛けしましたが、メンバーの皆さんから温かいサポートをいただき、無事に活動を終え、今という時間を過ごすことができている。今日、被災者の方とお話したのですが、そのときの会話内容を記載させていただきます。その被災者の方には高校生のお孫さんがいらっしゃる。そのお孫さんは『ふっこう』という漢字を書こうとしたのですが、『復興』ではなく、『復光』と書いたそうです。なぜ、復興ではなく、復光なのか。お孫さんに訪ねたところ、『学生も子供も光を失っているから』そのようにお孫さんは答えたとのこと。震災で心が痛んでいるのは、大人だけではなく。子供たちも必死にもがき、耐えながら毎日を過ごしています。震災前では当たり前で過ごしていた“普通の生活”には程遠い方が、今なお大勢いらっしゃいます。今日お孫さんのお話をしてくださった方も、一見明るく接していただきましたが、津波によりご近所のお家や水産加工工場など、当たり前のようにあった建物を、一瞬にして失ったことを考えると、心の痛みは簡単には拭えないと思います。連合ボランティアは9月をもって一旦終了します。今までボランティアスタッフによって行ってきたことを、被災者の方の雇用拡大へシフトする、という経緯があることは十分承知しています。しかし、まだまだ手付かずの地域が広範囲にあることを考えると、雇用拡大はもちろん重要ですが、まだまだ私たちのやるべき役割も大きいのではないかと…どうしても、そんなことを考えてしまいます。私たちは、これから地元へ帰ります。直接的な支援はどうしても難しくなりますが、地元へ帰ってから自分のすべき使命を全うし、これからの生活を送っていきたいと思います。

《北陸労組 兼田》

今日は最終日ということで、全体的な感想を書かせていただきたいと思います。本当は

書きたいこと、伝えなければならないことがたくさんありますが、今は上手くまとめることが出来なくて残念です。第19次ボランティアでは、作業エリアが同じだったので、ほぼ毎日、バスで同じ道を通りました。狭い道を私たちボランティアを乗せた大型の観光バスで作業エリアまで連れて行っていただきましたが、道中、大型トラックと何度もスレスレですれ違い、今まで見たことのないような重機があちらこちらで作業をしている風景を毎日見ました。大きな道路に面した場所では、車を利用した店舗やプレハブの店舗がいくつか集まった小さいモールのようなものもあります。着実に復興に向けて進んでいるという印象です。あちこちに積まれている「瓦礫」の山は、長い時間をかけて綺麗になっていくことでしょう。でも、土地が整備され、建物が建設されていくだけでは本当の意味で復興を遂げたことにはならないと思います。再び被災地に人が住むようになり、町として発展していき、かつてそこで営まれていた「普段の生活」が出来るようになるまでが「復興を遂げる」ということだと思います。現地を目の当たりにして、正直、その道のりは果てしなく遠く、険しいものになると思われます。今回、本当にたくさんの方からブログのコメントをいただいて、表現のしようがないくらいうれしかったです。ボランティアをしていて何が「不安」にさせるかという、「自分の存在がみんなに忘れ去られているんじゃないか?」という気持ちを抱いてしまうことです。「短い期間でそんなことあるはずがない」と思いながらも、皆さんからのコメントがないと不安になってしまいます。被災地の皆さんも「被災地のことを忘れないでほしい」という気持ちがすごく強いとお聞きしました。テレビや新聞で被災地のことを知るだけでは、被災者の方に何も届きません。被災者の方へどんな形であれ、私たちの「声」を届け続けることが何よりの励ましになるとボランティアに参加して強く思いました。温かく見守ってくださった皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございました。来週からのメンバーにも私たちと同じように元気と勇気を与えてあげてください。

《無事に到着》 9月17日

全労金メンバーの3人とも無事に東京駅に到着しました。でも、朝の5時なので、どこも開いているお店がなく、3人でさまよってます。

頼りない班長でしたが、友野君と中西さんに本当によく助けていただいたおかげで、楽しく、そして充実できた1週間にすることができました。

この間、私たちを毎日、応援してくださった全労金の仲間、職場の皆さん本当にありがとうございました。そして、第20次で参加される皆さん、体調管理に気をつけて、がんばってきてください。

私たちは、この貴重な経験をそれぞれがそれぞれのやり方で、より多くの人に伝えていきたいと思ひます。



以 上